

被災現地において 継続的に 被災者と協働して 原子力災害によって破壊された被災地域の 生活と産業の再生をめざす

再生への道 共感と協働

自立した個人ボランティア
多様な層の参加による活力
ネットワーク
広い視野
職業経験／専門知識・技術
柔軟な対応
きめ細かいケア

自立再生への力
経験・知識・技術
伝統・文化・知恵
村民
分断を乗り越える協働が必要
いいいて協働社

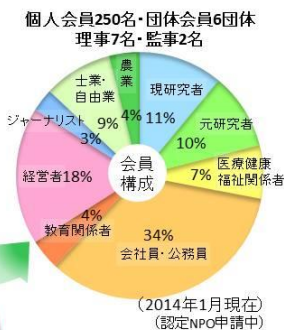
共感と協働



地域再生を目標

特定非営利活動法人(NPO)

専門知識・技術
大学・研究機関
専門を超えた協働が必要



公共サービス
**行政
(国・県・村)**
縦割り・横割りの克服が必要

飯舘村村民とふくしま再生の会との出会い

2011年6月、田尾陽一(現「ふくしま再生の会」代表)を中心に15名ほどのグループが訪問。協働を申し出る。

合意事項

- ・ 福島第一原子力発電所の事故は、明確な人災である。
- ・ 原子力発電所はそもそも事故を収束させる技術を当然持っているべきである。
- ・ 村民が帰村して安心して農業を営み生活できる施策を打つべきである。
- ・ 福島だけの問題ではなく世界の問題である。
- ・ 得られたデータをすべて再生のために行政へ提供し提言を行う。

共感から協働がスタート。
「ふくしま再生の会」発足

汚染の実態を正確に知る
全村放射線モニタリング
エアロゾル測定
山野草放射能測定
イノシシ放射能測定

ふるさとに農地を取り戻す
農民が自分でできる除染法開発
住居除染・山林除染実験

農業の再生
イネ、大豆、ソバの試験栽培
放射性セシウム移行調査

**まずは現場を見る
自分にできることを持ち寄る
農家の知恵に学ぶ
組織や制度に囚われない
走りながら考える**

産業の再生
小水力発電ピコピカ
点滴養液栽培システム

健康・医療ケアの試み
までい再生ネットワーク
いいいてホームサポート

**専門家の、
市民の、
役割が問われている**

世界に伝える
ICTと人のネットワーク
各国からのスタディツアー

福島・飯舘村再生の意味とは